札幌大学孔子学院
062-8520　札幌市豊平区西岡３条７丁目３－１

道民カレッジ連携講座 予定

2019 年 6 月吉日

２０１９年度

孔子学院連続講座～現代中国の経済と社会を知る～

札幌大学孔子学院は、今や 13 億の人口を擁し、改革開放 40 年を経て GDP 世界第 2 位の経済力を持つに至った大国「中国」の経済、社会、文化などに関わる諸問題について、毎回さまざまな視点から解説する、現代中国の経済と社会を知る連続講座を開催しています。

講師陣は、経済学、経営学、文化人類学、異文化コミュニケーション、言語学などの領域における、いずれも新進気鋭の研究者です。是非、お申し込みの上ご参加いただきますようご案内申しあげます。

記

日　時　：　第二回　2019 年 **6 月 28 日(金)16:30**

講　師　：　汪先恩（オウセンオン）　Wang Xianen 氏（順天堂大学内科准教授/
華中科技大学同済医学院教授）

演　題　：「陰陽平衡と長寿健康」

※　このほか今年度前半に 2 回開催予定です。決まり次第改めてご案内します。

会　場　：　**札幌エルプラザ２階　環境研修室２**

詳　細　：　講師紹介、講演要旨は次頁(あるいは裏面)をご参照ください。

募集人数：　４０人　　**※　参加料無料**

■□　申込方法　□■

①氏名 ②性別 ③年齢(何歳代) ④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号を明記し下記に E メールまたは FAX でお申し込みください。

■□　申込締め切り　□■

６月２６日（水）１７：００必着　ただし、定員になり次第締め切ります。

■□　本講座は道民カレッジ連携講座に申請しています。　□■

■□　お問い合わせ先・申し込み先　□■　申込は下記に記入の上 FAX 送信も可

札幌大学孔子学院事務局（札幌大学図書館２階閲覧フロア内）
（土日祝日を除く 月～金　9:00～17:00）
TEL　011-852-9754 / FAX　011-852-9362
HP　http://www.sapporo-koshi.jp,　E-mail: su-koshi@ofc.sapporo-u.ac.jp

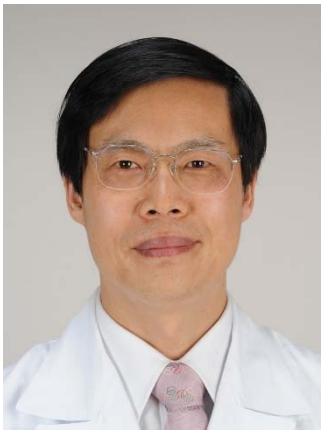
～第二回　6/28　申込書～（全てご記入ください）　　ＦＡＸ　011-852-9362

フリガナ		性　別	何歳代？
氏　　名		男性 ・ 女性	歳代
住所	〒		
電話番号、E-mail	―　　― @		

札幌大学孔子学院
062-8520　札幌市豊平区西岡３条７丁目３－１

〔演題、講演要旨、講師紹介〕孔子学院連続講座～現代中国の経済と社会を知る～

第二回　2019 年 6 月 28 日(金)16:30～



演　題　：　陰陽平衡と長寿健康

講　師　：汪先恩（オウセンオン）　Wang Xianen 氏

（順天堂大学内科 准教授）

講演要旨：

健康長寿は人間共通の夢であり、その夢の実現には病気を予防・治療しなければならない。医療技術が高度発展し、医療費も高騰しているが、難治性病気が逆に急増している。この状態を是正するには中西医融合、特に陰陽平衡理論の知恵が必要です。

臨床実践より、中医学（漢方）と西洋医学にはそれぞれ長所・短所があり、その疾患により漢方薬が、西洋医学が、または両者の併用が最適な場合がある。

中医にとって難治病とされていても、西洋医にとっては困難でないものがあり、たとえば手術適応症などがその一例である。逆に、西洋医には難治病であっても、中医にとっては得意なものもある。

中医学と西洋医学体系は基本的に異なってはいるが、病気を治療するという目的は一致し、本来相対立するものではなく、共存互補すべきであり、これを中西医融合という。

現在、日本では漢方薬が使用されているが、その一方、効果の低下や、副作用も多い。主な原因は漢方理論に違反し、「証」を無視した結果であると考えられる。

陰陽理論は中国古代の哲学思想であり、各領域に応用されている。中医学では、病気の機能状態を証に帰納し、陽証と陰証に大分、さらに細分していく。興奮・亢進の機能状態を陽証、抑制・低下の機能状態を陰証と呼ぶ。

健康とは陰陽平衡（バランス・中庸)、すなわちからだに機能の亢進と低下なし、物質の過多と不足もない状態である。病気とは陰陽失衡（アンバランス）の状態である。養生は体の陰陽平衡を維持、治療は体の陰陽平衡を回復させること。

陰陽平衡理論に従って漢方製剤や養生でアトピー性皮膚炎、潰瘍性大腸炎、冷え性、喘息、メタボリックシンドローム、不妊症、リウマチ関節炎、認知症、腫瘍などに悩んでいる方を正常化させる例が多い。

講師略歴：

1984 年安徽中医薬大学卒業、内科医となり、1988 年華中科技大学同済医学院医学院医学修士卒業、同大学付属病院・中西医結合研究所に勤務、助手、講師を経て、1995 年助教授、2002 年教授となり、現在に至る。1991 年金沢医科大学消化器内科に派遣され、高田昭教授の指導のもと、C 型肝炎ウイルス遺伝子型の分析、星細胞の機能などの研究に従事、1993 年順天堂大学で佐藤信紘教授の指導のもと、肝線維化機序、胃粘膜損傷修復機構及び融合医学などの研究を行い、1997 年医学博士号を獲得。

中西医学融合の視点から独自な研究を取り込む。アトピー性皮膚炎・糖尿病・冷え性・肝障害・うつ病・腫瘍などの難病に対し体質改善の漢方サプリを開発。

著書：

「改善阿脱皮过敏体质」河北科技出版社　2004 年、「図説中医学概念」山吹書店/積文堂　日本 2004 年、「アレルギー体質の改善」アプライ、日本、2006 年、「Allergic constitutions medical remedies and improvements」USA 2008、「冷え性体質の改善」万葉舎、日本　2008、「2 型糖尿病は肝疾患」万葉舎、日本　2009、「Type2 Diabetes is a Liver Disease」e-book USA 2010、「不可不知的中医学智慧」中国河北科技出版社 2011

以上